

令和6年度 研究構想図

【研究の目標】

児童の「こんなことができるようになりたい」「友達と協力して学習したい」などの思いや願いを基盤とした授業改善を図り、非認知能力を高めていく。また、非認知能力を高めることで、これからの社会を主体的に行動できる児童を育成し、授業改善を通して教員の授業力向上を目指していく。

【本校の教育目標】

- おもいやる子
- かんがえる子
- げんきな子

【本校の児童の実態】

教員の指示に基づいて、学習したり行動したりすることができる。その一方、目標を解決するために自ら計画を立てたり、それに基づいて粘り強く行動したりすることに課題が見られる。また、各学年のグループ活動の様子からも、自分たちで効果的に学習を進められているとは言えない。

研究主題

非認知能力が高い児童の育成
～児童の思いや願いに応えられる授業作りを目指して～

【目指す児童像】

低学年	<ul style="list-style-type: none"> ③ 相手に応じて、自分の考えや思いを伝えようとする。 ④ どんな場面でも学びを生かして対応しようとする。 ⑤ 困難にも前向きにチャレンジしようとする。
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ③ 相手や目的に応じて、自分の考えや思いを伝えたり協働したりしようとする。 ④ これまでの学習と比較したり関係付けたりして考えようとする。 ⑤ どんな課題でも諦めずに、粘り強く取り組もうとする。
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ③ 相手や目的、意図に応じて、自分の考えや思いを伝えたり協働したりしようとする。 ④ 物事を多面的に考え、問題解決を図ることができる。 ⑤ 何度も繰り返し考え、よりよいものを創り上げることができる。
4くみ	<ul style="list-style-type: none"> ③ 適切に他者と関わり、自分の思いを伝えようとする。 ④ これまでの経験や学習を生かして考えようとする。 ⑤ 目標に向かって粘り強くやり抜こうとする。

【研究の仮説】

児童の思いや願いに応えた授業作りを行い、自ら学びに向かう児童を育成する。また、主体的に学び、非認知能力が高まることで、変化が激しいこれからの社会においても、主体的に考え行動できるようになるだろう。